

機巢

同窓会報メールマガジン

Vol. 19 秋号

岐阜工業高等専門学校 機械工学科 機巢会

目次

P-2	目次 & 会長挨拶		
P-3	叙勲の報に接して	橋浦 正史	
P-4	橋浦正史名誉教授の叙勲を祝して ①	坂井 浩司	(7期生)
P-5	橋浦正史名誉教授の叙勲を祝して ②	浅野 弘光	(電気工学科 22 期生)
P-6	橋浦正史名誉教授の叙勲を祝して ③	山田 実	(24期生)
P-7	ホームページリニューアル	中尾 賢治	(15期生)
P-8, 9	霊仙山登山記!	藤嶋 清隆	(7期生)
P-10, 11	海外特派員報告	伊藤 友裕	(33期生)
P-12	編集後記		

会長挨拶

中野 廣幸

木々の色づきに秋の深まりを感じるこのごろでございます。機巢会の会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

新型コロナの感染の脅威は、なかなか収まらず、第2波、第3波、あるいは季節性インフルエンザとの同時発生が懸念される中、経済の再生と感染の防止の両立という難しいマネジメントが求められています。本年に入って新型コロナ感染防止のために、我々の生活様式がいろいろと変わりました。もし将来この新型コロナが終息した時、コロナのために変えたこと、例えばリモートワークとかソーシャルディスタンスによる劇場、映画館の観客の制限などは定着するのでしょうか？新型コロナは、今後の我々の社会生活を大きく変えるのでしょうか？

私は、我々の生活を大きく変えることはないと考えます。なぜならば、次のような経験があるからです。以前私は、換気扇を製造する会社に勤務していました。換気扇は住宅構造に深く関係する商品です。私が換気扇の製造販売に携わっていたころ、日本の住宅の仕様が大きく変化する時代が始まりました。地球環境保護のため、省資源、省エネルギーに対する要求が高まり、その実現のために、住宅の高気密、高断熱化が進みました。しかしながらそれに適した建材が、十分に用意されていませんでした。そこで発生したのがシックハウス症候群でした。やがて法整備がすすみ、建材から発生するホルムアルデヒドの量等の規制、換気の義務化により、シックハウス症候群が発生することはなくなりました。シックハウス症候群が発生したからと言って、日本の住宅は、従来の低気密、低断熱の住宅には戻っていません。なぜ戻らなかったのか、理由は高気密、高断熱の住宅が快適だからです。

アフターコロナでは世界は変わるのか、変わらないのか、それは変えることが快適か否か、あるいは楽しいか否か、で決まります。変えた方が楽しくて、快適な場合は、それは定着するでしょうし、快適でない場合は、定着はしません。この新型コロナは人類の、平和で快適で豊かな社会生活を求める探究に対する単なるノイズでしかありません。

もちろん新型コロナの出現により我々が獲得した感染リスク管理の手法や、検査・治療の手順は定着するでしょう。しかし、我慢や自粛の生活は定着しないでしょう。それは楽しくないからです。我々が生活様式を変化させるのは、変えることが、楽しく豊かな社会を実現することになる場合だけです。

まだまだ、みなさんに直接お会いして、お話する機会が持てない状況ですが、この自粛・我慢の状況は長くは続きません。新型コロナが早晩に終息し、みなさんにお会いできることを楽しみにしております。



叙勲の報に接して



瑞宝小綬章・略綬（左）

The Order of the Sacred Treasure, Gold Rays with Rosette



橋 浦 正 史

この度、令和2年秋の叙勲(瑞宝小綬章、教育研究功労章)を授与する旨、通知がありました。はからずも身の引き締まる思いでございます。偏に皆様のご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。それに伴い岐阜高専教員の日々を回顧することといたします。

大学院修士課程で、研究の指導教授の勧めで岐阜高専に助手として赴任することになりました。君は教員に向いているとのことでした。金属系の卒業研究、機械工学実験などの授業を、それほど歳が離れていない学生とこなすことになりました。第1期生には、今日でも兄弟のようにお付き合いいただいております。高専の教育課程では、中学校卒の若い時から実技科目を習得するので、経験が身に染み込むと言えるでしょう。中でも卒業研究は重要な科目です。我が金属材料研究室の基本的な方針として、①1学生に1テーマ、②実験装置は可能な限り自作する(実習工場の利用)、③専門学会での発表を掲げており、成果もありました。日本鉄鋼協会、日本鑄造工学会などに私自身も論文を投稿し、工学博士の学位を取得しました。

さらに高校時代のバレーボール部の選手経験が評価されて、クラブ顧問を命じられました。当時、東海地区体育大会では、数年間は最下位でした。約10年後には全国大会で優勝しました。バレーボール部の卒業生の献身的な支援には頭が下がりました。写真部の岐阜県展入選、撮影旅行、バドミントン部の創部など懐かしいです。校務分掌では、学級担任、学科主任、電子計算機室長、教務主事などを担当しました。ゆとり教育の導入では、完全週5日制、教育課程の見直しなど、教務主事として懐かしく思い出されます。

岐阜高専を定年退職してからも、温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

橋浦正史名誉教授の叙勲を祝して ①

坂井 浩司 (7期生)

瑞宝小綬章の叙勲、おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

私が高専に入学したときクラブ活動は剣道部に行くつもりが、寮の室長にバレー部の部室前であたり会い、背が高くなりそうという理由だけで強引に誘われ入部しました。以来、橋浦先生には大変お世話になりました。

1年生の東海地区大会(鈴鹿)は、ただバスに乗って会場に行きボーと試合を見ていただけでした。2年生の東海地区大会は岐阜が主管校で、県岐商の体育館で開催され、豊田戦の途中で5M兼松さんの眼鏡にボールが当たるアクシデントがありメンバーチェンジ、惜敗です。先生にとってこの敗戦はかなりショックのようでした。岐阜だけが東海地区大会での優勝がなく、この大会での意気込みは相当のものでした。3年生になり、1学年上の上手い部員が二人も退部したためにレギュラーになりました。先生がクラス担任になり、この頃から、あれやこれやと、耳の痛い注文をいただいたものです。4年生の東海地区大会では鈴鹿戦でサーブの狙い撃ちにあい、あっさりメンバーチェンジ。ベンチに戻った私に、何も怒らない先生が不気味でした。

大会後の夏休みの練習はとてもハードで、部員が少ないのにスパイク⇒ブロック⇒レシーブの繰り返しで先生を恨みましたね……。5年生、最後の東海地区大会の初戦、鈴鹿に負けましたが敗者復活で、二日目に沼津に勝って決勝に進出。相手はまたもや鈴鹿、そして二度目も負けるということこれ以上無い恥をかきました。試合後の整理体操の際、先生から「最後までしっかり声を出して行け」と言われ、ヤケクソで1, 2, 3, 4……と数えていたら泣けてきました。悔しくて情けなくて……。何としても地区大会での優勝を！……と卒業後の5年間、先生のご指導の下、バレー部のコーチに就任しました。金属材料の研究室でバレーの話ばかりしたものです。

5年目には運にも恵まれ、初の東海地区大会優勝、そして「全国大会初出場初優勝」を経験させていただいたことは忘れることのできない思い出です。先生の東北人の持つ粘り強さが、全国大会優勝という偉業に繋がりました。

思い返せば、本当に楽しい10年間でした。また、先生の奥様には官舎にお住いの頃、何度もおいしい手料理をご馳走になりこの上ない喜びで、本当にお世話になりました。

重ねて、この度の叙勲、心よりお慶び申し上げます。ご壮健で益々のご活躍を祈念いたします。



橋浦先生を囲んで

2006年5月3日
バレー部OB会

橋浦正史名誉教授の叙勲を祝して ②

浅野 弘光（電気工学科 22 期生）

このたび令和 2 年秋の叙勲にて岐阜高専名誉教授の橋浦正史先生が瑞宝小綬章を受章されました。コロナ禍で明るい話題も少ない中、大変ご名誉で素晴らしい知らせを耳にすることができ心からお慶び申し上げます。

私は岐阜高専在学時代、バドミントン部創部にご尽力頂きました顧問の橋浦先生に大変お世話になり感謝しております。1988 年同好会から部への昇格の際、部長を務めた私に温かく力強いご指導を頂き、バドミントン部の立ち上げと発展に多大なお力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。橋浦先生は退官後も地元クラブでバドミントンを楽しみ続けておられるようで、毎年開催される岐阜高専での OB 戦にもご参加いただけ、集まった OB/OG の皆に気さくに声を掛けてくださいます。私たちが元気な橋浦先生のお顔を拝見でき、一緒に楽しく汗を流しております。この温かく人間味溢れる橋浦先生だからこそ、今回のご名誉な受章に繋がったのだと感じています。これからもお体を大切に益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。



●2019 年 3 月
岐阜高専バド部創立 30 周年を祝う会
前列中央：橋浦先生
(後列右端：筆者)



●2004 年 11 月
OB 戦
(橋浦先生 岐阜高専退官記念大会)

橋浦正史名誉教授の叙勲を祝して ③

機械工学科 山田 実（24期）

この度は橋浦先生の瑞宝小綬章叙勲まことにおめでとうございます。受勲されましたのは岐阜高専などにおける長年の教育・研究の功績が認められたためかと思しますので、本稿では、橋浦先生との思い出をもとに教育・研究についてご紹介します。

橋浦先生は、金属材料学の分野でご研究されてきましたが、早くから金属結晶の画像処理や計算などにパソコンを活用されてきました。また、学内の成績処理システムやマイコンを使った授業など情報処理に精通されていました。写真1の本は1987年出版の「パソコンによる機械工学演習」（当時の機械工学科の先生と共著）と1991年出版の「パソコンで学ぶ材料学」です。「パソコンで学ぶ材料学」を執筆されているとき、私は橋浦先生のところで卒研をしていましたので、原稿の校正を依頼されたことを覚えています。また、第1回高専プログラミングコンテストに参加するため京都へ一緒に行ったのもよい経験でした。

余談ですが、卒業研究を始める際に渡されたのが写真2の「卒業研究の手引」です。だいぶ黄ばんでしまいましたが、たまに読むと初心に戻ることができます。中には橋浦語録とも言える内容が書かれてあります。一部を紹介します。

- ・つまらないと思うなら、それで今までの努力は無駄になる。
- ・冷静かつ厳格な目で、データを見るのが科学者であり、その道の達人である。
- ・苦しさに耐えられないと感じたなら、ゴールは近いと思え。

材料学の授業は非常に分かりやすいものでした。私が学生当時にとったノートや材料学の授業を引き継いだときにいただいた講義資料を見ると、とてもよくまとめられた講義内容であることがわかります。

学会では日本鑄造工学会東海支部で理事をされ、退職後は平成28年度まで名誉理事をされました。また、日本鑄造工学会などへの論文投稿や全国講演大会でのご発表など多くの研究成果を残されています。

そのほか、人材育成の講師、学内での校務のことなどご紹介しきれないこともあります。橋浦先生のますますのご活躍を祈念しております。



写真1 橋浦先生の著書

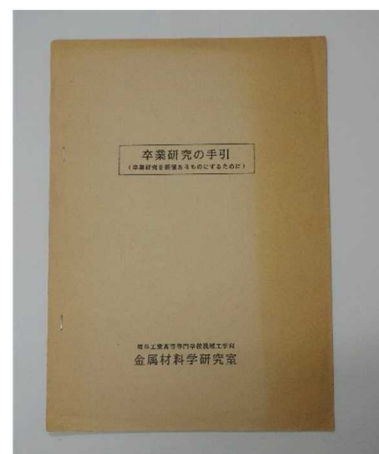


写真2 卒業研究の手引

ホームページリニューアル

～ 機巢会ホームページのリニューアル計画のお知らせ ～

2016年に機巢会の同窓会報（メルマガ形式）を創刊すると同時にホームページを立ち上げ、同窓会員に広く読んでいただけるように、メルマガのアーカイブなどを掲載してきました。

現在、ホームページの内容は、メルマガの案内と総会関係がほとんどですが、かねてより一部の同窓会員などから「使い勝手をよくしてほしい」などの意見や要望が寄せられてきました。今回、そのような意見を反映し、また時代に即したツールを取り入れた内容とすべく、ホームページをリニューアルすることとなりましたので、その一端をお知らせします。

（１）アンケートフォームの追加

メルマガを読んでのご感想やご意見をお寄せいただけるアンケートフォームを追加します。

今まで、一方向的な情報発信だったメルマガを双方向な情報発信にし、より充実した楽しいメルマガへとしていきます。

（２）OBコミュニティの設置

クラス会の案内、OBへの案内、お悩み相談など、OB間のやりとりができるコミュニティを設置します。

機械系技術者同士、高専卒業生同士だからこそ共有できる話や、同窓生への情報発信に活用していただく事で、横と縦の繋がりを促進するコミュニティの場としていきます。

（３）Facebookの活用

現在、情報の発信には、メルマガを使っていますが機巢会のFacebookページを新たに作成します。

メルマガの発行、同窓会の開催、総会の開催などの案内を発信し、普段Facebookを使われている方には、情報が届きやすくなります。

今後も、同窓会員皆様のご意見などを頂戴し、充実したホームページとしていきたいと考えております。

（文責：中尾 賢治 15期生）

海外特派員報告

伊藤 友裕(33期生)



新型コロナの第2波に見舞われているイギリスから、元編集委員の伊藤さんがイギリスのコロナ事情と息抜き方法についてレポートです。

まずイギリスの新型コロナの経緯を振り返ってみると、2020年1月末にイギリスにおける最初の感染者が確認され、その後感染者数が増加、3月中旬には政府指示のもと完全ロックダウンに突入しました。ロックダウン中は生活必須業種（病院・生活必需品を扱う小売店・ライフライン供給元など）以外のすべてが学校なども含め閉鎖され、不必要な外出も制限、企業は自宅勤務で最低限の業務を継続する事態となり、2月中旬に赴任し公私ともに立上げ中だった私は非常に苦勞しました。3月末には対策を陣頭指揮していた首相までが感染しますが、その1週間後にエリザベス女王が即位以来4度しか実施していなかった国民に向けた演説を実施しました。個人的印象ですが、この演説のタイミングが非常に絶妙で、これによりイギリス国民の意識や覚悟が同じ方向を向いたように思いますし、このタイミングを設定した政府や王室の戦略に目を見張ったものです。5月からはロックダウンが順次緩和され、6月からは学校が再開、種々制約はあるものの8月には概ねすべての業種が再開するにいたりました。その後9月からの第2波が到来、第1波の時とは検査体制の違いはあれ、記事を書いている10月末時点における1日あたりの新規感染者数は2万人を超え過去最高となっている状況です。

私はというと、3月のロックダウン以降現在に至るまでずっと在宅勤務を継続しているという状況で、息のつかまることが多い日々、そんな中で息抜きとなっているのがゴルフと自転車です。

3月から4月にかけてのロックダウン中、一日一回の運動と通院や生活必需品購入以外は外出禁止というほどのものでしたが、5月になると、レストランなどに先立ちますゴルフ場が再開しました。ご存じの通りゴルフはイギリス発祥とされており、各街には公園の如くゴルフ場があります。屋外での個人プレーという、感染対策が取りやすいスポーツということもありますが、最初期の営業再開にゴルフをもって来るなど、政府の心意気に触れた気がしたものです。当時他にできることと言えば近所のジョギングと庭掃除くらいで、息抜きとばかりに私も15年ぶりにゴルフクラブを握り毎週コースを回ることになりました。イギリスといえばリンクスが有名ですが、各街のしなびたコースもその気軽さゆえにおすすめで



街中から隣り街へとつづく遊歩道・自転車道

す。クラブハウスも大きくなく、さもなくば小さいショップ併設の受付のみといったコースも多く、料金も 2,000 円から 3,000 円台、まさに公園という感覚。ゴルフというと日本ではどうしても格式高い行事になりがちですが、このイギリスのふらっと行ってスループレーでサクッと 18 ホール回る感覚が自分には合っています。イギリスに来る機会があれば、空き時間を作って頂き、ふらっとそこらのコースをめぐるって頂ければ、イギリスゴルフ文化に触れて頂けること請け合い。

イギリスゴルフのもう一つの側面は、夏時間の終焉とともにやってきます。イギリスの暗く長い冬はゴルフ場のコンディションを悪化させ、また遅い日出と早い日没により、一部の高級なゴルフ場を除き、街のゴルフ場は閑散としてきます（閉場はしない）。

そこで最近始めたのが自転車です。イギリスは極端に暑くも寒くもなく、かつ雨の降る気候ゆえに木がよく育ち、そこかしこに公園が、そしてそれらをつなぐように遊歩道・自転車道が張り巡らされています。新型コロナの影響による部品供給減少と公共交通機関回避や運動を目的とした需要増により自転車がかなり品薄となっていたようで、自転車の入手には若干手間取ったものの、個人売買で自転車を入手。ゴルフより時間がかからないことから天気が許す限り毎日走っています。これもまたどの街にも道があり、街と街をつないでいたりするので、そこそこへ行けて楽しいもの。イギリスに来る機会があれば、空き時間作って頂き、ふらっとそこらの遊歩道を散歩して頂ければ、イギリスの散歩文化に触れて頂けること請け合い。家族や友人と散歩しながらひたすらしゃべっている典型的なイギリス文化に触れることでしょう。

最後に、私が属する航空業界は、新型コロナ対策に伴う移動規制の影響をまともに受け、各社の業績は大幅に悪化しており、会社の存続をかけて人員削減を含む生き残り策を矢継ぎ早に遂行中です。一方で業績が伸びている業種もありますが、そもそも昨今の状況においては皆様の生活にはなにかしらの変化が生じており、その変化は知らず知らずのストレスになっているのではと想像します。長引く新型コロナ禍において、皆様が健やかに過ごしていければよいなと思い、とはいえまずは自分からだと、明日も息抜きしようと思う今日この頃です。



OBにならないゴルフ場と、グリーンでどんぐりを食べるリスがいる街中のゴルフ場

霊仙山登山記！

2020年8月10日 山の日月曜日

藤嶋 清隆 (7期生)

昨年9月に始めた山登りも4回目になりました。前回のメルマガ機巢 Vol. 17「池田山登山記！」の中で太田哲也さん(6期生)が次回登山する山として紹介されました「霊仙山」に太田哲也さん、飯沼義徳さん(7期生)、私藤嶋清隆(7期生)の3人で行ってきました。

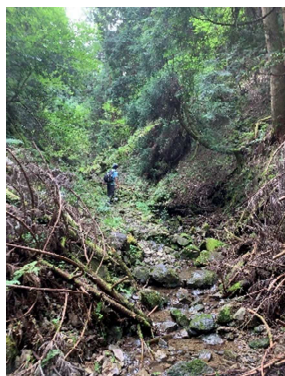


少し「霊仙山」がどんな山であるかを説明しておきます。

この山は海拔が1,084mで、伊吹山の南に位置し「花の100名山」に選ばれています。四方の開けたカルスト台地の山頂からは、空気の澄んだ時には遠くアルプスなども望めます。また西に位置する琵琶湖はもちろんのことその向こうにある比叡山、比良山系も望めます。登山実行は当初7月の始めの土曜日を予定していました。梅雨時期のさ中実行できるかどうかの心配は織り込み済みでしたが、やはり雨続きで2週間延期し、その日も雨でさらに再延期となりました。



雨続きの影響で、沢の増水や斜面の崩落などが心配なので無理は避け十分天候が安定するまでしばらく待とうと考えていたところ、太田さんから8月10日【山の日】ではどうかとの提案があり【山の日】でもありたぶん天候も安定してそうなので、予定をしました。



登山計画はしたものの霊仙山に登ったのは、だいたい30年以上前のことで案内するには少し不安がありましたので登山道の状態や歩行時間などの確認のため6月6日に下見登山に行ってきました。

以前は普通に歩けた登山道も荒廃が進んでいたり、事故等もあつたりして、米原市側にあった登山道4本の内2本が立ち入り禁止となっていました。また以前はかなり奥まで車で行き駐車できた所も、現在は林道の落石を考慮してか相当手前に車を止め林道歩きを余議されていました。下見から判断し、当初はJR 醒ヶ井駅から登る予定にしていたのですが、歩行距離は長いが幾分勾配の緩い、また電車を使って便利なJR 柏原駅からに変更しました。

当日はJR 柏原駅で待ち合わせをし、車を使って中山道、国道21号線を横切り車の走れる林道を3Km ぐらい走った所で車を止め登山開始としました。天気は少し薄雲が掛り快晴とまではいきませんが、真夏の暑い日差しも遮られそのぐらいのほうがいいかも良かったです。

車を降りてからはしばらく林道を斜面からの落石に注意しながら歩き林道の終点で登山道に取り付き、沢沿いの少し荒れた勾配のきつい道を慎重に尾根まで登りました。途中周りは杉林であまりいい景色ではありませんでした。尾根まで登ると新2合目になり、立派な杉の木が2本あるところで給水と休憩を取りました。新2合目から8合目までは長い長いほどほどの勾配の尾根道になります。途中3~4合目のあたりで南に展望が開けたスポットを通過すると少しさわやかな風も吹き、遠く養老山地や烏帽子岳なども望めれば歩みを止めました。

4合目にある避難小屋(壊れかけて使用できない)の前でそこらにある石に座ってみんなで休憩を取りました。

ふと飯沼さんの足を見ると黒いものが見えたので「カナブンがいるよ」と声をかけたらそれは実は山ヒルでした。あわてて太田さんも私も足元を

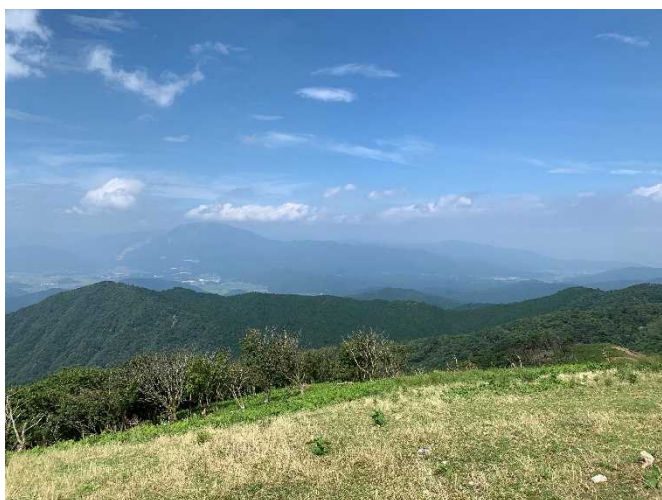


調べたら山ヒルに食われて赤い血が出ていました。この登山中に3人とも2か所ほどや山ヒルに食われました。しばらくいい天気が続いていたので、山ヒルはいないだろうと思っていたのが間違いでした。

4合目を過ぎてからは、暑さと疲れで休憩を取るピッチも短くなり、また会話にも弾みが付きついつい休憩時間が長引き最初に予定していた登頂時刻に向かったの歩行ペースに遅れが出る雰囲気となりました。

そんな感じでどうにか樹林帯を抜け8合目手前まで登ってきました。昔は8合目から上は藪が背丈以上に伸びた所で、藪こぎをして頂上に登ったものでしたが、自然の移り変わりなのか今はきれいに一面草原となり見晴らしがよくなっていました。

8合目避難小屋の目前には赤土のむき出しの急斜面にロープが張ってあり、そこを喘ぎながらロープを頼りにして登りようやく避難小屋に辿りつきました。当初の予定ではこのあたり(8合目避難小屋)を正午ぐらいに通過したいと思っていましたがすでに午後1時半になっており、これから頂上に向かってもおそらく小1時間は要すると思われ、安全に下山しほどほどの時間に JR 柏原駅に着けることを考えここで今回の登山は終わりとし、少し遅い昼食を取り下山することにしました。コロナの関係で間隔を取りながら、小屋を除く360°のパノラマの中での食事でした。頂上に立てなくて残念でしたが、登山は頂上を目指す事だけではないのでそれはそれで今回の山登りは山ヒルに食われたことなどいい思い出になりました。季節や時期を変えて登ると、きれいな花であったり、きれいな山であったり見られるのでまた登りたいと思っています。皆さんも機会があればぜひ一度登ってください。それにしても今回の山登りは【山の日】なのに上りで2人に会っただけで昼食時に山頂付近を覗いても人を動きが見られませんでした。不思議でした。



編集後記

編集委員

6M 太田哲也



お陰様で 19 号まで発行できました。次回は記念の 20 号ですが、機巢会の設立 40 周年の特集号が発行できると嬉しいです。まだまだ身内の記事が多く、編集委員が原稿を作成していますが、同窓会の皆さんから寄せられた記事や近況報告を載せたいと思っています。HP への書き込み等も期待しています。ご意見をお待ちしています！

7M 飯沼義徳



10月27日に、7MのLINEグループ（十五夜会）が出来ました。アッという間に19名がメンバーになりました。全員がシニアであるが故、なれないことで送信ミス等見受けられますが、結構楽しいものです。そしてつい最近、橋浦先生が20人目のメンバーになっていただけました。まだ未加入の7Mの皆さん、参加お待ちしております。

8M 犬飼宏好



メルマガ秋号も無事に発行できて一安心。今回も橋浦先生の叙勲、ホームページリニューアル、海外特派員報告など気になる話題満載となりました。是非とも多くの方々に読んでいただきたいものです。

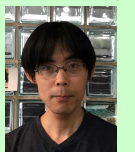
さて話は変わりますが、もう12月（師走）です。師走の風物詩に京都清水寺での「今年の漢字」があります。私の予想は「禍（わざわざ）」ではと思っていますが、皆さんは？

15M 中尾賢治



1980年代よりペーパーレスという言葉が叫ばれてましたが、結局紙はなくなってきませんでした。昭和中期の生まれの私としましては、紙ベースの方が見やすいな、と思ってしまいます。ただ今回のホームページリニューアルにしても、流行の情報ツールを理解し使いこなさないといけません。と言っている私はまだガラケーです。

24M 山田 実



これからの時期、求人依頼や会社説明会のため卒業生が岐阜高専を訪問する事が多くなってきます。私も同級生に会ったりすることがあります。ご自分が勤めてみえる企業・会社に岐阜高専の学生を迎えたい場合は、私か就職担当の小栗先生にご相談ください。

31M 堀口英樹



コロナ禍明けない今日この頃。先に新年が明けてしまいそうです。コロナのお陰か例年の様な慌ただしい日々が今年は少ない気がします。明けない夜は無いと言われます。早々にコロナ禍も去ることを祈っております。

発行日／2020年11月30日

責任者／中野廣幸

発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343 FAX 058-320-1349

http://gifu-nct.com/